

# 山梨大学教育人間科学部附属教育実践総合センター センターだより 第95号（通巻第162号）

2011年2月28日発行  
山梨大学教育人間科学部  
附属教育実践総合センター  
TEL 055-220-8325, FAX 055-220-8790  
E-mail: jissen@sazanka.aj3.yamanashi.ac.jp  
[URL: http://www.cer.yamanashi.ac.jp/](http://www.cer.yamanashi.ac.jp/)

※ このセンターだよりで紹介した研究会、研修、教育フォーラムに関するお知らせは、変更しない限り、自由に複写、配布していただいて結構です。

## ■ 「平成22年度教育フォーラム」のご報告

平成22年度の実践教育運営委員会では、「学校と保護者の“結びあい”」について注目し、学校に対する要望、特に保護者への対応について考える教育フォーラムを企画・運営しました。50名以上の参加者とともに、実りある講演会となりました。

第23回教育実践フォーラム 『学校と保護者の“結びあい”を考える』

日時：平成23年2月13日（日） 午後1時～4時

場所：山梨大学教育人間科学部 J号館5F A会議室

講師：大阪大学大学院人間科学研究科教授 小野田正利先生

司会：清野辰彦（山梨大学准教授・実践教育運営委員会副委員長）

近年、保護者から学校に対して様々な要求や苦情が寄せられるなかで、学校の責任範囲を大きく超えるものや学校の努力によっては解決不可能なものなどが急増してきているといわれます。教員に対する各種のアンケートなどでも、こうした要求への対応が重荷になりつつあることが示されています。また、教員志望の学生でも、この問題があるために教職にためらいを感じてしまうことが少なくないようです。

今回の教育フォーラムでは、このような学校に対する無理難題要求の問題にいち早く気づいて十年以上に亘り調査と研究に取り組んでこられた大阪大学大学院の小野田正利先生を講師としてお招きしました。無理難題に振り回されるのでもなく、非常識と切って捨てるのでもなく、適切な対応を通し



て学校と保護者の“結び合い”を作り上げていくにはどうすればよいのか、ともに考える機会となりました。

ご講演は「70%で相手の話を受けとめよ」「普通の教師が普通に活躍できる学校を」などわかりやすいキーワードをもとに、学校への要求、要望に対応した具体的な事例をお話しいただきました。どうしても学校が解決できない問題に対して、「言い逃れをしない、見殺しにしない」としながらも、「学校ができることとできないことを見定めること」「エラーを重ねないこと」等すぐに取り組むことができる方策をご提示いただきました。終盤は、「愚痴をこぼす場をつくること」「定年までは元気で、定年後は健康で」と現場の先生に対するエールを送っていただきました。

参加者からは、「エネルギーなわかりやすく勇気をもらえるお話でした」「先生の雄弁な語りに吸い込まれて聞き入ってしまいました」と終始熱弁をふるわれた小野田先生のパフォーマンスへの感想とともに、「一生けん命に講演して下さる姿に、現場で、子ども、生徒、教師、保護者とも、上手く聞いて欲しいという願いが感じられました」と感謝の感想が寄せられました。また、学生からは「教師を目指すにあたり不安が大きいです。でもお話を聞いて保護者対応より子どもを見ることが大切だとあらためて思うことができ、これから前向きな気持ちで頑張っていこうと思いました」とこれからの教師人生への希望となった感想、現場の先生からは「大変感動致しました。教師のすばらしさを改めて確認出来た」「70%の力で定年まで頑張りたい」などの感想が寄せられました。

## ■ 第4回連携・教育研究会のご報告

例年県教育センターで行われる総合教育センター研究発表大会に、連携・教育研究会が相乗りする形で、2月22日（火）、第4回連携・教育研究会が開催されました。参加者約400名。大学側からは、来賓、指導・助言者として、障害児教育講座の鳥海順子教授、英語教育講座の田中武夫准教授、実践センターの嶋田一彦教授、雨宮亘客員教授、瀧田二三雄客員教授、谷口明子教授、成田雅博准教授、早川健准教授の8名が参加いたしました。全体の流れは、開会式からスタートし、研究概要の発表、各グループの提案・協議と進められました。全体の研究テーマ「生きる力をはぐくむ実践的な研究」とし、「言語活動の充実」「不登校問題」「特別支援教育」「学校における情報モラル教育」の4つの研究グループの発表がありました。言語活動の充実グループでは、理数教育、伝統と文化に関する教育、道徳教育、小学校外国語活動、他の教科教育等多岐にわたって発表がなされました。いずれの発表も現在の教育課題の解決に迫るすばらしいものでした。大変勉強になりました。

## ■ 第78回国立大学教育実践研究関連センター協議会のご報告

2月18日（金）東京学芸大学において、第78回国立大学教育実践研究関連センター協議会が開かれました。本センターからは、谷口明子教授が総会及び教育臨床部門会に参加いたしました。総会の全体は、開会、議事・報告（1議事録確認 2部門報告 等）、発表・意見交換（1デジタル教科書について 2教職実践演習の進捗状況とセンターの役割）という流れでした。特に、各大学の教職実践演習とセンターの関係や、センターの現状と将来計画について、情報交換・討論が活発になされました。

教育臨床部門研究会では、各大学の活動状況が報告され、組織改革の流れの中で教育相談や地域貢献、学生教育への参与等、多様な活動状況が報告され、今後の研究活動の在り方を含めて意見交換が行われました。

## ■ 研修会講師・研究助言等の「教師等支援活動の実施報告」に関するお願い

附属教育実践総合センターでは、研修講師・地域での講演・研究助言等の教師支援に関する実績の統計をとり、県教育委員会へ報告しております。お手数ですが、教師や保護者・児童生徒・地域の一般の方を対象とする研修会講師や講演・研究助言等、地域支援活動の実績を附属教育実践総合センターのホームページ上にあります「教師等支援活動の実施報告」にご記入いただく形で送信してください。ご協力よろしくお願いいたします。

## ■ 「教育相談」の報告書に関するお願い

個別問題に関する教育相談を実施した方は報告書の提出をお願いします。教育相談の実施報告書については随時受け付けております。報告用紙にご記入いただいても、「日付・方法・相談対象・学年・性別・相談者・相談内容」をメールに書き込んでお知らせいただいても、エクセルの一覧表フォーマットにご記入いただいてもかまいません。フォーマットは添付ファイルでお送りしますので、どうぞお申しつけください。

報告用紙は、教育人間科学部総務グループ入口をに入って左手にあるレターケース（総務グループ提出箱）の教育相談専用ボックス（青いラベルです）にあります。提出は随時受け付けておりますので、谷口のレターボックス（教育実践総合センター）にお入れください。

## ■ 「教育相談室」及び相談室の備品をどうぞご利用ください

教育相談室（Y-304）をどうぞご利用ください。ご利用に際しましては、事前に教育実践総合センター事務室（J号館4F）にて空き状況を確認の上、ご予約ください。鍵はセンター事務室にあります。利用された場合には、相談室内に置かれた使用簿及び報告書の記載をお願いします。

教育相談室の心理検査やソーシャルスキルを高める児童・生徒用のゲームなど備品も貸し出しております。借りる際には必ず使用ノートにご記入をお願いします。

---

これまでのセンターだよりの一部は<http://www.cer.yamanashi.ac.jp/centerdayori.html>で見ることができます。